



Challenge Everything

～ 持続可能で心豊かな未来への貢献 ～

第3回

男女共同参画オンラインセミナー&茶話会

～YEG WOMEN'S エンパワーメント プログラム～

2023.11.13開催

ーリポーター
茶話会女性グループ



セミナー

講師：農林水産省大臣官房審議官 勝野美江 氏

テーマ：「ライフワークデザイン」

—感想—

五感を使い、気づく、わかる、伝える、行動する。子供への伝え方で自立して動ける人材へと日頃の接し方について学びました。

食育の重要性 与えるだけではなく、子供に気づかせる方法のヒントを得たとの意見も。

子供たちの理解した後の行動力、子供たちにできるなら、大人の私たちもできるのかなって思いました。

好き嫌いに関しては子供の学校でお話のあったようなプロジェクトがあり、体験することで食べられるようになるということって大事だなと思いました。

子供の通っている中学校では1年時わかめの種付け、2年時育てて、3年時収穫する取り組みをしているのでワカメが嫌いな子はいないと思う。そういう取り組みは大切なことだと思います。

食育に関して興味がありました。

子供の知って理解して伝えるそのスピード感がすごい

今の子供たちのこういった取り組みはとてもいいな・羨ましいなと思います。

ライフワークバランスということでみなさまどうしているかを知りたく初参加というメンバーもいました。

好き嫌いについて小学3年くらいの時に学校の授業で普段食べない野菜を育てて持って帰ってきた時に自分の作ったものだから食べたい。そこから食べられるようになった。

フリートークご意見集

Q：育児、家事、事業およびYEG活動を同時に進めるには限界がある、目標達成の為に、どうすればよいか？

- ▶**肩肘張らずに、お願いする力をつけてはどうか。**他者の理解を得ることは難しいがゴールを共有して協力者をえることが近道。
- ▶柔軟な働き方は、助け合いが必要。そうする理由はよりよくしたいから。**お互い様精神。**
- ▶チャレンジしたい事を**家族や子供にも共有して助け合いながら進む**ことが重要ではないか？実はそれは組織でも同じではないか。
- ▶YEG組織にも柔軟さが必要なのではないか。
- ▶母でも、義理母でも、兄弟も義理の姉妹も**あらゆる人の協力**を得ながら活動している。

基本的に皆さん優しくしてくれています。自分としてはあまり困ってないけれど、周りの男性がどこまで下ネタを言っているか自分の顔を見に来る時があります。

- 最近チャレンジしていること、またこれからチャレンジしたい事またその為の環境づくりについて話合いました。
- 働くを楽しくをテーマに地域のママさんと取り組んでいる
 - 来年、単会会長予定であるので、**託児所の導入**などにチャレンジしたい
 - 店舗改装とともに子供がいても働きやすい仕組みに挑戦

Q：YEG活動で女性が参画しやすくなっているか？

- ▶子供がいる為、YEG活動に関わりたくても関われないメンバーをたくさん見てきたので、次年度は予算の関係もあるが**託児所を取り入れて関われる女性メンバーを増やしたい。**と大変意欲的でした。
- ▶入会歴浅く役員になった際、まだ組織というものを深く理解できていなかったため、「子供を連れて行ってよいか？」という質問に当時の会長のご配慮で**委員会には子供同伴OK**となった。
- ▶役員会ではNGであったが、どうしても子守をお願いできない時に日頃の子供の様子をメンバーが知ってくれていた為、**役員会の同伴も受け入れられた。**
- ▶今思えば、何も知らなことでいえた一言だったのだと思うと振り返り、それが現在のYEG活動のスタイルになったことは本当に素晴らしいと思いました。

単会内では女性は自分一人での参加が多く、真面目にほかの会員（男性）と話していたら、仲がいいなとか、そんな意味でチラチラ見られて話してる相手（男性）側を**茶化したりする人がいるのが面倒だなと思ったりします。**こちらは真剣に話をしているのにそれで話せなくなったり、込み入った話になると大人数でというよりは一対一の方が深く話せるのでそういった時、口説いてるのかとか言われるがめんどくさいと感じる。こちらとしては特に男女で区別や意識してなくても、冷やかすのが好きな方が一部にいる。

フリートークご意見集

女性にとっても地方でもテレワークという手段を使って仕事が出来たらいいなと思い環境作りに取り組んでいる。

男性女性をもう別けずして早くみんなでいろんな事を共有できたら良いなと思いました。

男女関係ないと思っていても、ジェンダーギャップと言われるものが社会には存在するのは事実であり、そういったものを埋めていく。男性も女性も共にお互いを尊重して支え合っていく事が必要。しかしながら、20年間埋まっていない。だからこそ、**声を集めていく事が必要**。

特にYEGの女性はポジティブなので、色んなことをポジティブに変換して努力して学んでってやっているけど、そこに行き着くまでに**辿り着けない女性メンバーもいたりする**。

YEGの中でも、**差別的な発言をされて辛い思い**をした。

男性だと言われないことを言われた。

男女関係なく、何かのリーダーになってもらうとか、勇気を持って発言するとかっていう前に一歩行く人に対して、その行動の結果ではなく、**行動したことを褒めるっていうプロセスが大事なんじゃないかな**と思う。

最終的には**男女がお互いを尊重できるという事が一番目指したいところ**。女性だから、男性だからではなく同じ人としてその人を見るっていう社会や組織だったら皆んな過ごしやすくだろうなと思う。

男性女性関係ないという言葉はあまり言わない方がいいのではないかな。もう男性女性っていうのはやめましょうという方もいる。ただ、男女が違うっていうところを認識しないと、始まらないのではないかな。**講師の勝野先生の言っていた思いやりを持つ事が大切。ジェンダーギャップがあることを認識して皆んなが言葉に出していかないと何も進まない**。

YEG女性メンバーも**女性同士で話を聞いたり、話をさせてもらえる場が欲しかった**との声もある。

会議に出ても、**ダメ出し会議が多すぎる**。ダメ出しではなくてなぜそう思ったかということに寄り添って考えてほしい。

まだまだアンコンシャスバイアスがかかっている。女性はこういうものだからっていう発言とか行動がある。だからこそ、**こういった学びの場が必要**だなと思います。

フリートークご意見集

講師：勝野さんが参加したグループ Q&A

Q：清水弘美先生の特活の考え方、FELL ACTION DO SHAREが男女ともに活躍するのに必要な気がした。農林水産省では男女比が4割ということだが、昔からそうなのか？

A（勝野）：増えてきている。**時短勤務の人も管理職になったり、育休も普通になっている。フレックス勤務で、夜に来て仕事をしてもいい。徐々に進化している。**子育てしながら働くためのいろいろなルールが用意されている。

ほかにも、若い人の定着のために、担当以外の仕事を全体の4割までなら担当できるシステムができた。

私自身は、短い時間でいかに仕事するかというスキルが身についたと思う。

Q：仕事もして、家庭もあって、大学も行くというのはかなりすごいこと。工夫したことは？

A（勝野）：**ダラダラする時間をとにかく減らした。**ダラダラする時間にデータ入力するとか。隙間時間を無駄にしないようにした。化粧も5分で終わらせる技を付けた。計画を立てていかにメリハリをつけるか。

あと、便利なものを活用すること。メモしたこと自体を忘れないように、思い出すタイミングを指定できるリマインダーにメモするとか。

Q：時短勤務について女性が管理職につけたのはなぜ？一般的な評価システムだと、勤務時間が短いと評価が上がりにくいけど…

A（勝野）：一方的に評価するではなく、**シェアする、気付く、理解するという考えかたが重要**なのではないかと思う。

戦うではなく、すり合わせる。自律的に行動し、相手を認め合う。そういう作業ができるようになってくると、人を見る目が明確になるような気がする。**何が課題で、誰のために何のためにこれを行っているのかを、全員でシェアできる**ようになると、人を見る目、評価する目が変わると思う。